

原水爆禁止世界大会・広島碑めぐり遺跡めぐり

一瞬で400人が犠牲に

被爆の実相伝える本川小校舎

8月4日～6日に開催された原水爆禁止2018年世界大会(広島)の2日目、動く分科会「碑めぐり・遺跡めぐり」に参加しました。広島被爆協で平和学習講師をされている藤本純子さんのガイドで、広島市本川町・中島町周辺の遺跡や慰霊碑を見学しました。



本川小学校被爆校舎、手前は平和学習講師の藤本さん

元安川と本川とを挟んで原爆ドームと対面した位置にある本川小学校を見学しました。ここは爆心から約410メートルと、最も爆心に近い小学校でした。本川小学校の正門を入るとソテツの木が目飛び込んできます。その周りには児童が作った灯ろうが並べられていました。藤本さんによると「ソ

テツは寺など格式の高いところに植えられています。本川小学校は意味で格式が高かった。峠三吉が、君たちよ、もう黙ってなくていい、僕たちは広島の子だ、飛び出して」と書いた詩があります。『墓碑』という詩です。ここでうたわれているのが、陸軍の子弟が通った育美小学校です。本川小学校はその次くらいに格式が高かったので「ソテツがあるそうです。

本川小学校の校舎は1928年に建てられた鉄筋コンクリート造の3階建てでした。原爆の爆風で窓枠も吹き飛ばしましたが、倒壊は免れたといえます。しかし、約400人の児童と11人の教師が登校しており、2人を残して全員が亡くなりました。校舎は戦後も使われ続けてきましたが、1987年に取り壊されることとなり、市民の要望で被爆校舎の一部と地下室が平和資料館として保存され、現在にいたっています。



2005年の長崎原水禁大会に参加した小林さん(右端)

もいる。こうして碑めぐりをしている生き残った人、亡くなった人の格差が分かります」と話してくれました。

破壊力の凄じさを実感



焼けた戸枠と配電盤(奥)

被爆校舎に入ると右手に原爆投下直後の広島の写真、パネルが展示されています。藤本さんは「愛媛県松山市の上空から撮られた写真です。B29

た」と解説してくれました。地下へ降りていくと、焼けた壁面や熱風で焼けた戸枠、焼け焦げた配電盤などが残されており、原爆の破壊力の凄まじさが実感されます。そして地下室の一室には被爆直後の広島市のパノラマ模型が展示されています。藤本さんは「パノラマ模型の前で、日清戦争が始まった1894年に広島駅が開業して以来、軍都として広島が成長してくる様子を説明してくれました。

建物疎開動員で被爆 義勇隊と広島二中慰霊碑



义勇隊の碑

温井部落は後家村と呼ばれ、お祖母ちゃんと孫しか残らなかったといわれるくらい犠牲が大きかったそうです。「真っ黒なお弁当」の話の主人公の折原滋さん(当時13歳)の名前が刻まれているのが広島二中原爆慰霊碑です。この碑は「慰霊碑」としか書かれていないと藤本さん。碑の右側がわざとらしく削られ、「被災並に原爆にて死された、元広島二中職員生徒三百五十二名」と昭和36年に刻まれたのですが、藤本さんは「これは後になってあらためて原爆という言葉が刻んだもの。原爆と書くと、誰が落ちた原爆で罪のない子どもが死んだのかという疑問が当然湧いてきます。それまで、それはアメリカだと想像されること避けてきたのです」と、原爆に関する情報統制が働いていたことを指摘しました。

原爆投下の目印となったT字型の相生橋につながる中島町地区には平和記念公園が整備され、多くの人が訪れます。原爆の子の像、原爆死没者慰霊碑、広島平和記念資料館の他に、数々の慰霊碑があります。その中で、本川の川岸に建つ義勇隊の碑と広島二中原爆慰霊碑を見学しました。

兵隊や軍属以外にも国家総動員で、家庭に残っていた働ける年代の人たちを、戦争に参加させるために編成したのが義勇隊です。藤本さんによれば、この義勇隊は建物疎開のために旧安佐郡川内村温井部落から動員され、疎開作業中に全滅しました。女性もたくさん亡くなりましたが、

死者が一番先に戦地へ行かされると思われました。今になり、現実はいじわりと憲法を変えて、戦争する国にし、多くの方が犠牲になった過去を繰り返す、おかまなしの政治が成り立っています。それはないでしょう、安倍さん、政治家はこれからの日本が希望をもてる国になるように、ちゃんと

核も戦争もいらぬ

八王子の小林八洲美さん

【八王子・左官・小林八洲美通信員】今年も平和行進は7月19日に山梨県から引き継ぎ、7月20日、八王子市八木町公園で広島の原水禁世界大会の壮行会が行なわれました。八王子市長から非核宣言自治体であるので、メッセージが届きました。午前10時スタート、猛暑の炎天下で甲州街道をまっしぐら。「二度と被爆者を生み出してはならない」。そのために核兵器を禁止し、廃絶する条約を、それに日本は賛成してほしいとの思いをこめてシニプレヒコール。「ノーモア広島・長崎」「ノーモア

アレキニ・福島」。6キロの道のりを行進しました。2002年8月、支部主婦の会会長の時、広島原水禁大会へ八王子原水協の皆さんと一緒にいき、忘れてはいけないことがあるのではないかと、禁大会には、本部主婦の会で

人々が生きること、生かされていること、語り継ぐことの意味を知りたいと訪れた原爆ドームや平和記念資料館で、衝撃的な歴史の真実と平和運動の大切さを知りました。今までの平和が、多くの方の犠

行きました。建設労働者職人原爆受難者の慰霊塔へ喪服姿で参列し、託された千羽鶴を献納しました。原爆の恐ろしさ、戦争の悲惨さを感じた熱い思いは忘れられません。その時、これからは建設労働者が一番先に戦地へ行かされるのかと憂えています。横田基地、厚木基地方向へ軍用機、軍用ヘリコプターとオスプレイが飛んでいます。毎日のように轟音を響かせて八王子市の上空を飛んでいます。